

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町65
電話 03(5228)3171 FAX 03(5228)3175
発行者 総主事 司祭 三鍋 裕

聖歌集の完成と新しい歩みの始まり

管区事務所総主事 司祭 ローレンス 三鍋 裕

14年間のたゆみない作業を重ねて新しい聖歌集が完成しました。本当に多くの方々の奉仕になる捧げ物です。作業途中で世を去られた方も少なくないようですが、完成に先駆けて天のお国で歌っておられることでしょう。

聖歌集の刊行に当たって混乱がありましたことを改めてお詫び申し上げます。第1回目の印刷・製本は5000部でした。校正や著作権使用許諾などの問題もあり、11月に間に合わせるには工程上これが精一杯でした。発売前に5000部以上の注文が集まってしまい、悲鳴を上げました。クリスマスの準備といえば降臨節、この降臨節をいかに過ごすかにも準備の期間が要ります。降臨節の前にお手元に届くようにしなければならなかったのに、申し訳ないことでした。河北印刷のご協力で急遽5000部を増刷し、12月15日までに準備してもらえらることになりましたが、降臨節には間に合いませんでした。その増刷分を入れても不足になりそうな気配なのです。ご迷惑をお掛けしている中で恐縮ですが、知的所有権の問題がありますので「当面コピーで間に合わせて」とは絶対に言えないのです。知的な皆さまには是非ご理解いただかねばなりません。お許してください。私も買えないのです。

皆さまのお手元に十分に届かない状況の中で、新しい聖歌集のお話をするのは申し訳ないのですが、とても立派に出来上がりました。11月10日に出版感謝の会が第12回教区礼拝音楽担当者会に合わせて行われました。貧しい主教会がレセプションを主催されたのですから前代未聞です。そのレセプションの中でのご挨拶に、「この新しい聖歌集は広く大きい裾野があってこそ完成したのです」というお言葉がありました。裾野とは目に見える形では聖歌集に採用されなかった多くの作詞者、作曲者の奉仕を指すのでしょうか。そのときまで忘れてしまっていました。私も一応3曲の歌詞直訳を依頼されま

会議・プログラム等予定

(前回報告以降追加)

および11月25日以降)

- 11月
17日(金) 広報主査会(延期、日程未定)
27日(月)~28日(火) 文書保管委員作業会
29日(水) 礼拝委員会
29日(水) 青年委員会
29日(水) 主事会議
29日(水)~30日(木) 聖歌集改訂委員会
- 12月
1日(金) 常議員会
5日(火) 正義と平和委員会
6日(水) 主事会議(11月29日に変更)
6日(水) 年金の将来を検討する特別委員会
11日(月)~12日(火) 文書保管委員作業会
18日(月) 渉外主査会
- 2007年
- 1月
10日(水) 主事会議
11日(木) 教区制改革委員会
18日(木) 聖公会/ローマカトリック教会合同委員会
- 2月
7日(水) 常議員会
15日(木) 祈祷書等検査委員会

<関係諸団体会議等>

- 12月5日(火)
NCC財務委員会

した。何も憶えていませんが、難しかったことだけを憶えています。歌詞は独特な言葉使いですから、いくら直訳といっても単に英語を日本語にただけでは意味をなしません。内緒ですが、私は音符を見ても外国語と同じで意味が分かりませんから、連れ合いにピアノを弾いてもらって、どんな曲なのかを思いながら日本語を考えるのです。頼む相手を間違えられたのでしょ。しかし皆さんは専門家としての技量と情熱を持って作詞、作曲に当たられたのです。曲数の関係で、この新しい聖歌集には採用されなかったけれども、素晴らしい詩や曲が数多くあったはず。最終的な曲の選択に苦しむ仲間への愛と自らの謙譲の徳のゆえに、あえて裾野にとどまられた方々の奉仕に感謝を忘れてはならないでしょう。この目に見える形にならなかった奉仕を通して、日本聖公会は新しい宝を与えられたのだと思うのです。

古今聖歌集の中で好きであった曲が残っているのを見て安心したのもありますし、そうでないものもあります。増補版や改訂試用版を通して、すでになじみになった曲もあります。「あなたの平和の器にしてください」417、「サント・サント・サント」561、「わたしはなりたいキリストを生きる人に」563などでしょうか。

礼拝音楽担当者会でお話がありましたが、今の時代に、現実に信仰生活を営んでいる場からの声を発信するのが聖歌だそうです。であれば当然新しく、しかし身近な曲もあります。キリスト者の責任という項目があります。1節だけの引用では意味をなしませんが、現代の寂しい人への呼びかけとして「人ごみの街に行き交う思いと閉ざした心に 主の声は響く」419、平和の発信として「平和の鐘が広島から流れる」421、「長崎の空は足もとからはじまっている」422、「沖縄の磯に十字架をたてて」423 などがあります。

言うまでもなく聖歌は単に美しいお歌ではありません。わたしたちの信仰の発露として捧げる歌です。また、わたしたちの信仰を励ましてくれる歌でもあります。信仰の歌なのです。これだけのご苦勞をお掛けしながら申し訳ない言い方ですが、聖歌集の完成は新しい歩みの始まりです。この聖歌集によってわたしたちの信仰がさらに養われ、いずれさらに新しい聖歌集を誕生させる信仰が育ちますようにと祈ります。日本聖公会の皆さま、本当におめでとうございます。

『日本聖公会 聖歌集』の刊行

新聖歌集出版の意義と、教会へのお願い

聖歌集改訂委員会委員長 主教 森 紀旦

2006年発刊予定の、『古今聖歌集』(以下『古今』)の改訂版『日本聖公会 聖歌集』が、この11月1日に遂に発行されました。大きく聖歌と礼拝式文用曲譜とに分かれ、前者は581曲、後者は194曲が収められています。聖歌の内訳は、『古今』より309曲、『古今聖歌集増補版 '95』(以下『増補版』)より31曲、『改

訂古今聖歌集試用版』(以下『試用版』)から85曲、翻訳・創作・推薦より155曲です。全体で775曲となります。これは『古今』が1959(昭和34)年に発行されて以来の大きな改訂で、47年ぶりとなります。

少し前より日本のキリスト教諸教派が次々と新しい聖歌集を出しています。ごく最近のもの

を挙げますと、『典礼聖歌集』(カトリック1980年)、『讚美歌21』(日本キリスト教団、1997年)、『救世軍歌集』(救世軍、1997年)、『新聖歌』(日本福音連盟、2001年)、『ひむなる』(インマヌエル総合伝道団、2001年)、『新生讚美歌』(バプテスト連盟、2003年)、『ジュネーブ詩編歌集』(改革派教会、2006年)などで、私たちの『日本聖公会 聖歌集』もそれらに加わることになりました。海外聖公会の場合『ヒムナル82』(米国聖公会)、Common Praise(カナダ聖公会)と同じ名称で英国聖公会からはCommon Praiseが2000年に出されています。諸聖公会では、改訂の最中というところや、もうすでに発行し使用しているところもあるでしょう。

これらの聖歌集出版の洪水には理由があります。それは1960年代より宣教に対する考え方が大きく変わり、いろいろな理論の回復、強調、新しい考え方が現れてきました。

たとえば「神とこの世界」を見てみましょう。聖俗二元論の克服ともいえるものですが、かつては、教会のみが真理を持っており、この世界は不信仰な所、悪魔の住む所であるから、人間の正しい生き方は、この世界から安全な教会に逃げ込み、神を信じ、イエス・キリストに従ってこの世界を生きることが大切とされたのです。この考え方はくつがえされ、世界は、イエス・キリストのみ業によって、神の強い愛の対象であることが明らかにされました。信仰の目によっては、世界全体はすでに神の支配下にあり、将来の完成の時、目に見える形でそれが成就するのです。「すでに」主イエスはこの世に勝っています。私たちは「いまだ」それを見てはいけません。キリストの再臨の時に明らかになります。教会は、世界が神の支配の下にあることとしるしであり、「すでに」に気がついていない多くの人々を代表して感謝・賛美の礼拝をささげ、人々に気がついてもらうよう働き、人間の必要のために力を尽くすのです。

これらのことから、今回の『聖歌集』の特徴がほとんど出てきます。その第1は、文語の言葉

が口語になっている歌が多いということです。この世界のためにある教会が、普段使われていない文語のみで歌うことは出来ません。第2は、自己の罪深さを嘆くことが信徒のなすべきことであつたのですが、今度はさらに進んで、救われた喜びを感謝し、喜びを歌う、生き生きとしたリズムの聖歌が増えました。第3は、イエスのご命令により、全力を尽くして神を愛すると共に、隣り人、必要のある人を愛する歌が全体にわたって入りました。第4に、『古今』には神と「われ」の関わりを歌ったものが多かったのですが、教会は「神の民」「共同体」であることが強調され、神と「われら」の関わりを歌うものが多くなったことです。第5に、一般の人々の口に上らない難解な言葉は削除されあるいは言い換えられています。それに人権の大切さから、差別語・不快語なども使用しないように努めました。第6に、神が造られ愛してやまないこの世界を人間は破壊しています。それら被造物を「極めて良かった(創世記1章31節)という状態に回復し保全していく重要性を求める聖歌も入れられました。第7に、ともすれば欧米の聖歌の翻訳に片寄りがちですが、アジアの一員として、その地域の聖歌、また他の国々からも広く取り入れました。日本人、とりわけ聖公会員の作詞作曲のものもかなり採用しました。まだまだこの聖歌集の特徴をお話できるのですが、ここまでにしておきましょう。

『日本聖公会 聖歌集』は実にたくさんの方々の力によってできたものです。フィリピンのすてきな歌があり、それを入れたいときは、現地の言語を逐語訳する人、それを曲に合わせて詩にする人、そしてその言葉のふさわしい部分が

📖 出版物案内

・『日本聖公会 聖歌集』

2006年11月1日発行 価3000円(税込)

ご注文は聖公会出版へ

(点字版のご希望は管区事務所へお問い合わせください)

採用されているか委員が見ます。しかも曲に合った詩になっているか、それを歌って検討します。収められた聖歌はほとんどすべてその過程を通過しています。『古今』の聖歌もその順で見直しました。大変おもしろいことに、外国の聖歌の言葉は多くの意味・内容が豊富です。それを削って日本語の詩にすると、どの部分を選びとるかで、その人の神学が分かるのです。委員会は「宣教とは何か」をいつも念願に置いて作業をしてきました。

1994年の総会で聖歌集改訂委員会が立てられ、頭初の予定通り、2006年に12年かけて発行できました。感謝です。どうぞ信徒のみなさまも自分の聖歌集をご購入ください。そして家庭集会、ご自分の家での聖書勉強会で使ったり、好きな歌をお一人で、あるいはご家

族で歌ってください。判型も大きくなりましたので高齢者の方にも見やすく使えます。

教会では一定の聖歌に片寄らず全体を歌ってください。聖書を読むのと同様に祈祷書も読むことが勧められていますが、聖歌集も同様です。じっくりと読んでください。

すでに5月の総会でこの聖歌集が日本聖公会の正式な聖歌集と決められました。次の総会まで『増補版』『試用版』もいっしょに用いることが出来ます。2008年の総会で見直しをし、『日本聖公会 聖歌集』のみとなった場合でも、各曲集の聖歌は主教の許可があれば使えることとなります。ですから、『増補版』『試用版』も処分してしまわずに、手許に置いておきましょう。

ヒロシマから 憐れみの手を

広島国際平和会議の報告

神戸教区主教 アンデレ 中村 豊

今年5月のことです。広島青年会議所の青年3名が、主教巡回で訪れていた岡山の教会に私を訪ね、「ツツ大主教が国際平和会議に参加できるというメールを受け取りました。大主教は聖公会に属しているので招聘委員長をお

願いできないでしょうか」と要請されました。快く引き受けたまではよかったのですが、ツツ大主教の窓口との交渉が遅々として進まず、具体的な返事が先方から中々寄せられないなかビザ発給のための書類も送付せず、発給期限が過ぎてしまいました。10月30日(月)関西国際空港でツツ大主教本人と握手を交わしたとき、「キャンセルなしで会議を行うことなできる」と内心ほっと胸をなでおろしました。

頭を悩ました問題がもう一つありました。ツツ大主教講演会入場券が約300枚しか売れていないのです。今回の平和会議を政治問題と捉えていたのでしょうか。県や市は協力を躊躇し、11月2日昼に行われた、ノーベル平和賞受賞



者3名の歓迎レセプションには市や県の幹部は代理すら寄越さない有様だったのです。一方、会議の重要性をアピールしてくれたのがマスコミでした。ある新聞などは堂々と「……非暴力による平和主義でチベット独立運動を指導する……」とダライ・ラマ法主の経歴を紹介しておりました。会議開催2週間前から突如、券の売れ行きが伸びて2日間で2,200名の出席を得ることができました。

5年前の9月11日、アメリカで起こされた同



時多発テロに対し「やはり宗教は怖い。宗教を熱狂的に信じる人たちはどんなことをするのか予想すらできない」という反応が多く寄せられました。熱心に信仰している人たちは本当に怖い存在なのでしょうか。3名のノーベル平和賞受賞者を招いての国際会議期間中、ツツ大主教そしてベティー・ウィリアムス氏は是非礼拝堂にお招きして共に平和の祈りを献げることができないだろうか、キリスト者だけが集まるだけではなく仏教徒、イスラム教徒たちも加わる可能性はないだろうか、との思いが頭をよぎりました。宗教の枠を超えて聖堂に集まった人たちの祈りが聞き届けら

れ、世界各地で今でも続発している戦争や紛争、貧困、飢餓、回復困難な病いなどの解決の第一歩になるのではないかと確信し、カトリック広島司教区三末司教と広島キリスト教連合会長の日本キリスト教団月下牧師に相談し「平和の祈り」が11月1日夜カトリック平和記念聖堂で実現されたのでした。

ツツ大主教は「平和の祈り」のメッセージのなかで、「(何らかの事情で罪のない我が子を亡くし茫然自失している)肌の黄色い日本人のお母さんの涙と、(北アイルランド紛争で敵の銃弾の犠牲となり愛する子を亡くした)肌の白いお母さんの涙と、(南アフリカで蔓延するエイズや貧困により子どもを亡くし嘆き悲しむ)肌の黒いお母さんの涙は違うのでしょうか。肌の違いによって子を失った悲しみの度合いが異なるのでしょうか。神が創造された同じ人間の、同じ悲しみの涙ではありませんか。同時にそれは人間の罪に対する神の悲しみの涙なのです。それにもかかわらず、どうして肌の色や国や環境の違いだけで、人は偏見や差別を抱いてしまうのでしょうか。このような心の思いを払拭することこそ平和のはじまりなのです」と訴え、1000人以上集まった会衆の共感をよびました。

チベット総本山の僧たちによる声明、ノートルダム清心高校生によるグレゴリアン・チャント、浄土真宗聖歌隊による仏教賛歌で平和を祈り、



イスラム教徒の人たちは聖堂の外から祈りの輪に加わりました。



ダライ・ラマ
14世法主は故郷チベットを追われ、長い間インドで亡命生活を強いられています。ベティー・ウィリアムス氏は北アイルランド紛争で3人の子どもたちの死に遭遇

し、悲惨な状況に置かれている世界の子どもたち救済のために立ちあがりました。ツツ大主教は長い間人種差別撤廃の為に戦い、撤廃後は黒人と白人の和解のための「真実和解委員会」委員長に就任しました。

アイルランドのベルファーストで、自分の子を亡くした母親はこのように言ったそうです。「自分が加害者の母親でなくてよかった。加害者のお母さんはどれだけ息子の暴挙に苦しんでいるのでしょうか」。



ツツ大主教は被爆者について、「61年前の原爆投下により多くの人たちが犠牲となり、今なお後遺症で苦しんでおられる。被爆者やその家族は、苦しみのなかにあっても加害者を赦しのまなざしで見られておられる。『報復より赦し』の姿勢こそ平和実現にとってもっとも尊い」。続いて「苦しみを体験している広島の人たちは、キリストがそうであったように、『共に苦しみを担い、共に苦しみを耐え忍ぶ(コンパッション)』よき隣り人として世界の多くの場所で今なお様々な事情により苦しみ悩んでいる人たちに救いの手を差し伸べてほしい」と述べられました。

肌の色や世界のどの地域に、どのような両親、環境のなかにも生まれるかは神の創造の意志であり、宗教も同様です。人間の人間に対する尊厳の認識こそ人類平和の大きな鍵となることを学んだ2日間でした。

主事会議

第56(定期)総会後第3回 11月8日(水)

主な協議

1. 管区職員給与規程案について
常議員会に議案提出
2. 管区管理人規程改正案について
常議員会に議案提出

3. 大斎克己献金伝道強化プロジェクト選定について

選考手順について確認

次回以降の会議

11月29日(水)、1月10日(水)

† 逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 ルカ森田日出吉(中部教区・退職)
2006年11月1日(水)逝去(69歳)

司祭 山岸樹郎(北関東教区・退職)
2006年11月25日(土)逝去(89歳)

📖 出版物案内

- ・『2007年度 教会暦・日課表』
2006年11月1日発行 価300円(税込)
- ・『日本聖公会法憲法規』2006年第56
(定期)総会改訂 価630円(税込)

《移 動》

室根聖ナタナエル教会(東北)

住居表示変更

029-1201 岩手県一関市室根町折壁字屋中104-5

(郵便物等は当面教務所宛に)

「み言葉の礼拝」式文について

標記式文は、日本聖公会第56(定期)総会における礼拝委員会報告承認に基づいて、一部修正が加えられた上で、第176回(定期)主教会において、試用が承認されました。

このたび印刷発行することになりましたので、お知らせいたします。

2006年11月26日発行 頒価 1部 160円(税込)

◆ 渉外主事報告から

CCEA主教会議・Executive Committee 会議参加報告

日程: 2006年10月11日~17日

場所: ミャンマー・ヤンゴンの Summit
Parkview Hotel

参加者: ソウル教区 パク主教、夫人

テジョン教区 シン主教、夫人

東九龍教区 Tsui 主教

西マレーシア教区 Lim 主教、夫人

西マレーシア教区 Poniah 補佐主教、
夫人(Non voting member)

シンガポール教区 John Chew 主教

台湾教区 Lai 主教、夫人

日本聖公会 中村神戸教区主教、夫人
ミャンマー聖公会 Samuel Htei 主教、
夫人

オーストラリア聖公会 Roger Herft 主
教

Executive Committee Member:
Revd Lysta(香港島教区)、Mr.
Cheng(台湾教区)、八幡眞也(日本
聖公会)

ミャンマー入国に必要であるビザ取得
の問題でフィリピン聖公会及びフィリ
ピン独立教会の主教9名が参加出来な
かった。

議題:

- ・各教区の現状報告 マレーシアでは国全体
がイスラム化の傾向にあることが報告され
た。
- ・2007年開催予定の総会に関してはオー
ストラリア聖公会の総会日程の関係で当初
計画から2007年10月3日~9日に変更し
た。場所はシンガポール単独開催ないし

は近隣の都市を含める(マレーシア)。参加者は主教・司祭・信徒・青年。

- ・ 訪問施設: 神学校(管区レベル)、ホスピス(信徒が中心になって施設を建設した)、聴覚障害者施設(小学生から高校生まで、教区及び政府の支援がある)、歴史博物館
- ・ 主日礼拝: ヤンゴン近辺の教会に教区毎に訪問した。NSKKは洗礼者聖ヨハネ教会(St. John the Baptist Church)を訪問した。中村主教が説教をし、洗礼式を執り行った。
- ・ 特別講演として、ミャンマーにおけるキリスト教会の宣教の歴史と課題について、聖公会の司祭で元神学院教授による講演があった。教派間の宣教方法のちがいで、キリスト教理解に関してミャンマー人の混乱があるようだ。当然当初は海外派遣の宣教師によって布教が始まった。現地化が課題であったようだ。1963年から国の政策によりすべての外国人国外退去が始まったが各教派は必ずしもその準備が十分出来てはいなかったもので、現地化の過程で問題が多かったと思われる。

1970年にミャンマー聖公会として独立した。現在6教区、約62,000名。資金的に他の管区、教区の支援を受けている。大きな課題はミャンマーで最大の人種構成を占める仏教徒が主であるビルマ人への宣教である。

会議全体に当初少し不安があったが、実際にはホテル・宿泊・食事・訪問施設等、事前によく準備がされていて全く問題無かった。

前回からメンバーの変更があった。東南アジア(South East Asia)聖公会の首座主教がシンガポール教区John Chew 主教に、韓国聖公会の首座主教がソウル教区朴主教に、Sabah教区Albert Vun Cheong Fui 主教に、オーストラリア聖公会の代表がPerth教区 Archbishop Roger Herft 主教に変更され

た。

政府の政策で自由な発言が不可能ゆえ、現地の人たちが考えていることを把握することは非常に困難であった。案内してくれた信徒であるガイドが時たまバスの中で“個人の自由な発言が制限されている事”を嘆く位しか耳に入らなかった。

タウングー教区ウィルメ主教からライコウのDIFTCの報告を受けた(10月17日)。

2005年秋にトレーニングセンターの建屋が完成し、2006年春に第一回のトレーニングを開始した。ミャンマー聖公会6教区から推薦された2名ずつの信徒計12名と一般参加者10名の22名の参加者であった。このトレーニングが初めての経験であった為に、運営が試行錯誤であり、計画の2ヶ月間より少し長く2.5ヶ月かかったそうです。秋に第二回のトレーニングを12名の参加者で開催・終了した所です。

魚の養殖、養豚、養鶏、果樹園、農作業などの活動の実習をしている。魚は貴重な蛋白源でこれを売却して現地の人たちが現金収入を確保出来る仕組みである。

バンコクにてモニカ久野奨学生と面談(10月18日)

奨学金制度の責任者代行スーワンさん(責任者のスーナンさんが体調不良の為)と奨学生のパッチャリーさん(第一期奨学生)から状況報告を受けた。パッチャリーさんは2006年4月に看護大学を卒業し、看護師資格を取得すべくバンコクの病院で実習している。奨学金制度の恩恵を受けた事を大層感謝している。約2年間バンコクで実習をしてから、生まれ故郷に近い町の病院に勤務したいと言っていた。

この後バンコク近隣を少し案内して頂いた。

ミャンマーのトレーニングセンターの様子は次号に掲載の予定。